



## 空海の足跡と伝説を訪ねて同行二人 善通寺市の靈跡巡り

### こうぼうだいしこうかい 弘法大師空海

「お大師さま」と慕われる弘法大師空海は、宝亀5(774)年6月15日、多度郡屏風浦たどのこおりびょうぶがうら(現在の善通寺市)に、父・佐伯善通さえきよしみち、母・玉寄御前たまよりごぜんの三男として生まれました。幼名は真魚まおといい、11歳で叔父・阿刀大足あとのおおたりに学び、15歳で上京し18歳で大学明経科みょうきょうに入学しました。しかし、立身出世を目的とする勉強に疑問を抱き、人生の根本問題を解決するには仏教しかないと思いを決して退学。奈良の吉野山や四国各地を歩きまわり、僧侶として「空海」と名乗るようになります。24歳になった空海は「鬘髻指帰まうこしいき」を書き上げ、儒教、道教と比較し、仏教の優れた点を明らかにしました。

延暦23(804)年には念願ねんくわんかなって留学生として中国にわたり、長安で青龍寺の恵果和尚けいがかしやうから真言密教を直伝され、真言宗第8祖となります。日本における真言宗の開祖となった空海は、唐から持ち帰った品々を記した「御請来目録ごしょうらいもくろく」を朝廷に上表し、やがて歴代天皇から厚い信頼こうじんを得て、根本道場として東寺や修行の道場として高野山こうやさんをたまわりました。

偉大な思想家であり、哲学者である空海は「弁顕密二教論べんけんみつにきやうろん」、「即身成仏義そくしんじやうぶつぎ」や「秘藏宝鑰ひぞうほうやく」など多くの著

作を残しました。また、平安時代の三筆と呼ばれる書の大家であり、土木・建築・鋳業・自然科学・医療などさまざまな分野に才能を発揮し、日本初の庶民のための学校「綜藝種智院しゆげいしゆちいん」を開校しました。

満濃池修築には、それまでにない独創的な設計とその人望で、復旧工事を完成させたことでも知られています。そして、承和2(835)年、高野山こうやさんで入定し、延喜21(921)年に「弘法大師こうぼうだいし」の諡号しこう(天皇が高僧におくる称号)が醍醐天皇から贈られました。



### こうぼうだいしこうかい おもかげ 弘法大師空海の面影

弘法大師空海の御誕生所である四国八十八箇所霊場第75番札所総本山善通寺は、唐から帰った空海が父の名をとって寺号として創建した寺であり、そびえる大楠や金堂・五重塔がある東院がその場所に当たります。誕生院は鎌倉時代に空海が生まれ育った佐伯家の邸宅跡に建てられたものです。

総本山善通寺が父の菩提寺であれば、母の菩提寺は第72番札所まんだらじ曼荼羅寺。満濃池を修築した空海がその報奨金で建立したのは第74番札所こうやまじ甲山寺。空海の甥であるちしょうだいしえんちん智証大師円珍ゆかりの寺は第76番札所こんぞうじ金倉寺です。

幼い空海は五岳山に登り、心身共に修養を行い、仏に身を捧げる決意で第73番札所しゆつしゃかじ所出釋迦寺の奥院「禪定ぜんじやう」から身を投げたという伝説も残されています。

弘法大師空海ゆかりの地ならではの「みちくさ遍路」に出かけましょう。